

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ネイスぷらす柏校		
○保護者評価実施期間	2025年12月10日		2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年12月10日		2025年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間での情報共有が円滑	毎日の朝礼、終礼でお子様の様子や支援方針を話し合う時間を設けています。 お子様の成長段階に沿って審議を重ね、支援計画のみではなく最大限できる支援を都度考え、実施しています。	保護者様と情報共有ができる機会を増やし、ニーズに沿ってより一層、支援方針を明確にできるよう精進いたします。

2	体操プログラムが豊富	週ごとにメインの内容を『跳び箱』『鉄棒』『マット』の3種でローテーションし、内容が被らないように意識しています。 自社開発のネイスプロダクツの製品などを用いて、安全に配慮したうえでバランスや動作の静動、動きの大きさや強さの調整に働きかけています。	より課題や成長を感じられるように数値化できるアセスメントツールを活用することを検討しております。
---	------------	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室の活用方法	大きな部屋と職員室、相談室の3つに分かれており、安全を配慮しお子様には大きな部屋のみを利用をお願いしています。 個別の対応を要するタイミングで、他の部屋を使えないことがあるため、他のお子様にも影響がある可能性があります。	大きな部屋をマットで区切り、個別で落ち着ける環境を作っています。 以前取り上げた教室の死角についてはゲートで埋め、物置にすることで職員の目の届く範囲で過ごせるようにしています。
2	支援の一貫性	現在保育所や他事業所との連携ができていない状況です。 保護者様への許可、訪問可能な日時の調整に時間を要しています。	他事業所との連携ができるよう、関係構築から始めていきます。 支援するうえで一貫性を持つ体制を整えられるよう、情報共有をしていきます。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		ネイスぷらす柏校				公表日	2026年 2月 9日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環 境	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	0	<p>死角がある場合はマット等で空間を遮り、活動範囲を視覚的に明確にしています。職員の数が少ない中で、子どもに怪我をさせない等の危険な事が起こらない様に、事前に話し合いレッスン中の配置などを決めています。</p> <p>また現職員の中で暗黙の了解の内容が一致しているため、柏校でのルールが確立されつつあります。</p> <p>今後、また問題点が出てきたら全員で話し合う事ができる環境になっていると感じています。角にガードを設置するなど日常で怪我が起こりうる箇所を保護しています。</p>	蛍光灯の箇所があるため、ボール遊びなどで危険なところがあります。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	2	<p>お子様の特性など常勤3名で安全に回すことが難しい人数の受け入れがある場合は、サーキットの数を減らしたり、お子様のテンション調整をしたり、安全第一で行っています。</p> <p>お子様の状態や人数により内容を考えて怪我を予防しながら活動しています。</p>	職員数が増えれば、出来るサーキットや回数が増えるのではないかと考えています。		

境・体制整備	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	2	角にはマット等を配置したり、角用の保護シールを貼ったりしています。	トイレまでの導線が危険です。 トイレの入り口の段差が高く幼児にはつまづきやすいですし、冬は寒い・夏は暑い、環境が悪いため、お子様1人に職員が1名付き添う形で怪我を防いでいます。 2階に上がる階段が手すりが無いため、バリアフリーの観点では不十分である。保護者様にお願いし、手つなぎでの階段昇降を推奨しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1	2	暖房から異臭がするときがあるため、フィルター掃除をします。 死角を減らし、見える位置取りを意識して活動しています。 空間を区切ることが出来るので遊びに応じて分けることができます。	フィルター掃除は定期的に行って清潔な環境を保てるよう意識しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	0	個別対応が必要な場合は、マット等で区切り、落ち着ける空間を設けています。 個別の部屋の使用は職員の目が行き届かなくなることや、怪我のリスクがあるためなしとしています。落ち着きたい児童がいたら相談室に職員と入ったり、マットでカバーしたりして一人になれる環境を作ったりします。 相談室があるため、必要に応じて使用することができます。	

業 務 改 善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	0	お子様との関わりの面では、それぞれの職員が意見を伝え、同じ方向性で支援ができるよう意識しています。朝礼と終礼はマストに行なっていますが、それ以外でも相談や話し合いの場を持っています。朝礼、終礼の中で職員間で共有しながら業務を行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	評価表から得られる課題を話し合い、改善しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	面談や日々の朝礼、終礼で意見交換をしています。改善したいところは意見で出し合い、話し合いの時間を設けたりします。一人の上長のみではなく、相談窓口を広くしています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	0	社内社外の監査チームによる定期的な評価等を行い、業務改善に努めています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	月1の会議で研修の機会や、会社発信のイーラーニングがあります。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	0	ネイスがらすホームページにて公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3	0	同じ方向性で支援できるよう意見交換をしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0	それぞれの知識や経験を活かして話し合い、アプローチしています。	

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	1	同じ方向性で支援できるよう意見交換をしています。	家族支援、地域支援・地域連携について充実させ、ご家族と職員、その他の利用先が同じ矛先で支援できるようにしていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0	全員の意見やスモールステップが可能となるためのプログラムを立案しています。運動内容は児発は週ごとに、放デイは日々で職員で話し合いながら決定しています。活動前にプログラム内容の共有を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	0	週ごとに異なるプログラムを立案しています。上記の通り過去のプログラムをデータ化して固まらないようにしています。週間でプログラムのメイン内容を設定して行っています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	0	児発管不在の為児童発達支援計画の作成はできていませんが、特性や内容によって組み合わせることができるよう工夫しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0	活動前にプログラム内容の意識する点や役割の確認を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	0		
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	0			

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	同じ方向性で支援できるよう意見交換をしています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	1	2		今後参加を検討しています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0		今後さらに深めたいです。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	2		今後積極的に活動したいです。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	2		保護者様との連携を取り、ご協力させていただけるよう環境を整えて参ります。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	0		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	3		保護者様から様々な意見をいただいているため、必要性を含めて検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	フィードバックの時間やHUGのアプリなどで話し合いをしています。送迎の際や記録で活動の中で気になった点を共有しています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	2	参観があり保護者が活動内容を見ることができています。	開催に向けて前向きに検討しています。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	レッスン終わりのフィードバックの時間を使って行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	2		開催に向けて前向きに検討しています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	0	インスタグラムの活用をしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0		
非	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	3		必要性を含めて引き続き検討していきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	0		

常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	0		